

COVID-19罹患後症状に 人参養栄湯が奏効した症例



眞木 賀奈子先生

札幌南一条病院 呼吸器内科

2002年 北海道大学医学部 卒業、同第一内科 入局
 2004年～帯広厚生病院、北海道がんセンター、北海道社会保険病院、市立札幌病院、
 北海道大学病院 呼吸器内科
 2014年 北海道大学大学院医学研究科 博士課程 卒業
 2016年 牧田病院、JCHO北海道病院 呼吸器内科
 2019年 札幌南一条病院 呼吸器内科
 2022年 札幌南一条病院 漢方外来創設
 2024年 札幌南一条病院 呼吸器内科 医長

はじめに

COVID-19罹患後、咳、息苦しさ、動悸、胸痛などを主訴に呼吸器内科を受診する患者は多い。西洋医学的な診察、血液検査、胸部単純X線検査、心電図検査、呼吸機能検査では異常を認めないことが多く、咳に対する鎮咳薬の他には治療法がないために苦慮する。一方、適切な漢方薬を用いると、呼吸器・循環器症状のほか、倦怠感、食欲不振、頭痛、めまい、集中力低下、不安、不眠、味覚・嗅覚障害など様々な症状が緩和もしくは消失することを経験する。

症例1

症 例：43歳 女性。

主 訴：倦怠感、集中力低下、物忘れ、仕事を2/3もこなせない。その他に、めまい、夕方の頭痛、睡眠障害、湿性咳嗽などの症状があった。

現病歴：発熱、咽頭痛が出現し、抗原検査でCOVID-19陽性であった。トラネキサム酸と解熱鎮痛剤の服用で解熱したが、倦怠感とめまいが強く、湿性咳嗽が持続した。第15病日に近医内科にて処方された吸入薬と鎮咳去痰薬で湿性咳嗽は改善し、第18病日には職場復帰した。しかし、第32病日に再び倦怠感が出現し、第41病日に当院コロナ後遺症外来を初診した。

検査所見／東洋医学的所見：図1に示す。

臨床経過(図2)：COVID-19罹患後症状の診断で、倦怠感、集中力低下、睡眠障害、咳嗽等を目標に人参養栄湯3包(1/分3 食間・温服)、五苓散(頭痛時頓用)、五苓散(頭痛時頓用)、五苓散(頭痛時頓用)で治療を開始した。治療開始2週間後には元気が出てきたが、4週間

後に仕事量の増加で倦怠感が再び出現したためコウジン末1.5g/日を追加した。9週間後に頭痛症状が目立ってきたため五苓散 1包/日(起床時)とし、人参養栄湯とコウジン末は1日2回に減量した。18週間後にはCOVID-19罹患以前の体調に復したため治療は終了となった。

図1 症例1 43歳 女性

主 訴

倦怠感、集中力低下、物忘れ、仕事を2/3もこなせない。
 (そのほかの症状：めまい、夕方の頭痛、睡眠障害、湿性咳嗽)

現 症

身長 163cm、体重 35kg (COVID-19罹患前より2kg減)、BMI 13.0、脈拍 73bpm、
 血圧 118/80mmHg、体温 36.3℃、
 SpO₂ 98%、聴診所見異常なし。

検査所見

血液検査：基準値内、
 胸部単純X線検査：異常なし。

東洋医学的所見

望診：著明なやせ。顔面の皮膚乾燥、色黒、表情は比較的よい。
 聞診：声は小さいが、はきはき答える。
 問診：仕事はハード。

漢方問診票：64項目中、27項目にチェック → 寒証・気血両虚・水滯。
 脈候：沈・弱、手の冷えあり。舌候：薄白苔、舌下静脈怒張なし。
 腹候：腹力2/5、心下痞硬あり、胸脇苦満なし、臍上悸あり、振水音あり、
 腹部の冷え 軽度あり、足の冷えあり。

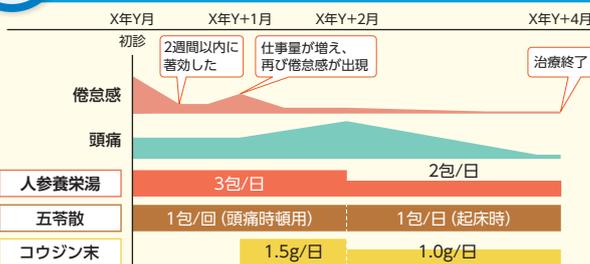
診 断

COVID-19罹患後症状

治 療

人参養栄湯 3包(1/分3 食間・温服)、
 五苓散(頓用)にて治療を開始した。

図2 臨床経過(症例1)



症例2

症 例：47歳 女性。

主 訴：倦怠感、咳、動悸、頭痛。

現病歴：発熱、咳が出現し、PCR検査でCOVID-19陽性であった。38℃以上の発熱が3日間持続し、解熱後も上記症状が持続した。職場復帰不能にて、第29病日に当院コロナ後遺症外来を初診した。

検査所見／東洋医学的所見：図3に示す。

臨床経過 (図4)：COVID-19罹患後症状の診断で、倦怠感、咳嗽、動悸等を目標に、人参養栄湯 3包/(分3 食間・温服)、五苓散(頭痛時頓用)にて治療を開始した。服用開始1~2日目より本人が驚くほど自覚症状が改善し、1週間には本人の希望で五苓散を1包/日(起床時)とした。9日後には復職したが、その後、帯状疱疹と腰椎ヘルニアの発症で再び休職となった。柴胡の抗炎症作用、柴胡・升麻の昇提作用が必要と考え、5週後から補中益気湯 2包/(分2 食前・温服)を追加し、人参養栄湯は補中益気湯との服用のタイミングをずらして1日2回に減量した。その後は元気になり、13週後の再診にてコロナ後遺症外来は終了となった。

図3 症例2 47歳 女性

主 訴

倦怠感、咳、動悸、頭痛。

現 症

身長 162cm、体重 48kg、BMI 18.3、
脈拍 77bpm、血圧 108/63mmHg、
体温 36.7℃、SpO₂ 97%、聴診所見異常なし。

検査所見

血液検査：基準値内、
胸部単純X線検査：異常なし。

東洋医学的所見

望診：顔面の皮膚乾燥、つらそうな表情。 聞診：声はやや小さい。
問診：仕事(病院勤務)に復帰できない悩みあり。
漢方問診票：64項目中、10項目にチェック → 寒証・気血兩虚・水滯。
脈候：浮沈間・虚実間、手の冷えなし。
舌候：紅舌、薄く細長い、乾燥あり、舌下静脈怒張なし。
腹候：腹力2/5、心下痞硬あり、胸脇苦満なし、臍上悸なし。
振水音あり、腹部の冷えなし、足の冷えあり。

診 断

COVID-19罹患後症状

治 療

人参養栄湯 3包(分3 食間・温服)、
五苓散(頓用)にて治療を開始した。

図4 臨床経過 (症例2)

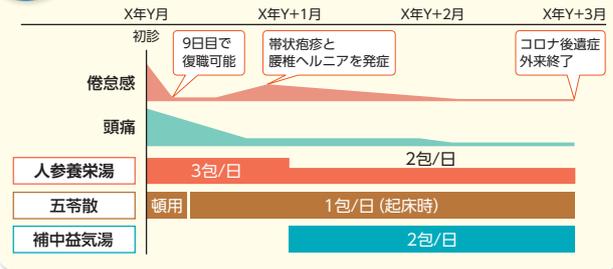


図5 人参養栄湯の構成生薬と薬能

黄耆 1.5	体表の気を補う	➡ 気虚を改善
人参 3.0	全身の機能を高め代謝を促進し、 消化吸収を高め、元気をつけ 疲労感を除き抵抗力を増す	
白朮 4.0		
茯苓 4.0		
甘草 1.0		
地黄 4.0	全身を栄養・滋潤する	➡ 血虚を改善
芍薬 2.0		
当归 4.0		
桂皮 2.5	……発汗・止痛・温通・利水作用	
遠志 2.0	……安神作用	
陳皮 2.0	止咳・化痰作用	
五味子 1.0		

考 察

2症例はいずれもCOVID-19罹患後に気血兩虚を呈し、人参養栄湯(図5)が早期に著効したが、服用期間は13週から18週に及んだ。また、水滯による頭痛、めまいを伴っており、五苓散が有効であった。

津田玄仙は『療治経験筆記』において、人参養栄湯の8つの特徴的症状(脱毛、顔色につやがない、集中力がなくなり物忘れをする、食欲不振、動悸がして不眠、皮膚の乾燥、爪の異常、筋肉の攣り)を挙げており、COVID-19罹患後症状に共通している点に注目したい。

Discussion

木村：症例1はCOVID-19に罹患してかなり痩せていましたが、地黄が含まれる人参養栄湯は服用できましたか。

眞木：本症例は初診時でも人参養栄湯内服後も消化器症状を認めず、しっかり服用でき、COVID-19罹患前の体重に戻りました。人参養栄湯は四君子湯の構成生薬のほか陳皮も入っていますので、胃腸が非常に弱いことがなければ使用できると考えます。

木村：十全大補湯、補中益気湯や加味帰脾湯など他の参耆剤との鑑別はどのようにされましたか。

眞木：2症例とも咳嗽があったので十全大補湯より五味子、遠志、陳皮を含む人参養栄湯を選択しました。また血虚を伴っていたので補中益気湯ではなく気血兩虚に用いる人参養栄湯を選択し、精神症状が顕著でなかったため、加味帰脾湯は選択しませんでした。

木村：頭痛やめまいに五苓散を使用されています。COVID-19罹患後に水毒症状がみられやすいという印象はありますか。

眞木：コロナ後遺症外来では各自覚症状がCOVID-19罹患後から始まった症状かどうかを確認しています。水滯の兆候はコロナ罹患以前からあり、罹患を契機に増悪されている場合も多くみられました。